

令和2年度 第2回蓮田市地域包括ケア推進代表者会議（書面開催）

No.	所属・氏名	議事1：意見 【書面会議の意見の反映について】	議事1：前回来議以降の所属での取り組み 【書面会議の意見の反映について】	議事2：意見 【認知症初期チームの活動について】	顧問からのコメント
1	蓮田市医師会	PCR検査センターまでの移送について 感染者疑いの方は遠方のセンターに行くのに 自家用車がなければ受けることができませ んでしたが、消防の方のご尽力により車 両を出していただき、移送可能となり助 かっています。しかし、センターには蓮田 市内中心部から車で40～60分ぐらい必要 としますので、可能ならば市内から15分 程度で行ける場所に検査ができる場所があ ればと思います。		①②良いと思います。特にありません。	
2	蓮田市医師会	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に予防対策法について大まかな方 法は報道等でも見られますが、具体的に細 かい部分は不十分です。また、消毒専門業 者に聞くと、足りない面も多いようです。 一般家庭で業者のように行うのは困難と思 いますが、家庭でもできる範囲で行える方 法を聞いてみてはいかがでしょうか？ただ し、今そういう業者は忙しすぎて対応でき ないかもしれません。 高齢者が多い中で実際にDVDを利用でき る人は限られると思うので、DVDにアン ケート用紙も入れて、有効に利用できたか 分析できた方が良いと思います。ホーム ページも、一番下にアンケートや意見を送 信できる欄を設けると、今後の参考になる のでは？ 		<p>①フリーで書いてもらっても、どんな内容を書いた ら良いかわからないと思うので、初期支援チームが 知りたい情報を項目ごとに選択または簡単に記入で きるようにし、その他気づいたことを最後にフリー で書くようにした方が良いと思います。</p> <p>②チーム内であれば共通したツール（紙ベースまた はSNS等）を利用すべきだと思いますが、チーム外 では職種も立場も異なるので使用できる用語も変わっ てきます。誰でもわかる内容に合わせると文章がま とまらないこともあるので、内容が理解できない場 合はそれを教える人が必要になるかもしれません。</p>	議事2 ツールの使用に関しては是非 検討して頂きたいと考えます。
3	蓮田市歯科 医師会	<ul style="list-style-type: none"> 市で保有のパルスオキシメーターの数が 少ないと感じました。保健所保有の数も少 ないようですので、市民の安心のためにも 増数を進言します。 次亜塩素酸水の正しい利用法が守られてい ないケースを多数みかけました。関係者へ の正しい知識の普及が必要です。 今回、メールにて回答をさせていただきました 。メールだと不要になる返信の封筒 に切手が貼られていたり、そもそも資料送 付の郵送料も勿体ないですし、市職員の労 力も軽減されます。歯科医師会会員に本会 議の報告時に資料がデータとしてあると大 変助かります。 情報弱者には、従来通り紙媒体での資料 提供を暫くは続ける必要がありますが、リ モートでの会議の開催、委員の選考におい ても、今後は考慮されないといけない時期 が到来したと、強く考えます。 	蓮田市歯科医師会では、2020年10月に 日本歯科医師会より発表されました「2040 年を見据えた歯科ビジョン」及び随時更新さ れます「新型コロナウイルス感染症 診療の 手引き」に基づき安心して安全な歯科医療体制 を市民の皆様へ提供しております。結果とい たしまして、蓮田市歯科医師会関係者の感 染、及び、全国の歯科診療所からのクラス ター発生もありません。引き続きこの状態を 維持できるよう努力致しますので、今後もご 支援をお願い致します。	歯科医師又は、歯科衛生士がチームにあまり参加し ていないと思われます。我々の業界の責務でもあり ますので、参加をお声掛けください。	

4	蓮田市薬剤師会		<p>○蓮田市薬剤師会としての取り組み（対コロナ禍対策）</p> <p>1. 今般のコロナ・パンデミックや大規模災害時等に必要となる医薬品、消毒薬及び感染対策備品等の備蓄に関する取り決めを蓮田市との間で交わし令和2年11月にスタートしている。</p> <p>2. 市内の小中学校における保健活動への取り組みとして「新型コロナウイルス感染症予防」の講演を実施した。事例：令和3年1月 黒浜西小学校</p>	<p>「連携して継続的に支援」という目標を達成するためには、支援する関係者の関与の有無等の情報を一元的に管理するシステムが有効ではないか。</p>	
5	蓮田市訪問看護事業所連絡会	<p>蓮田市でさまざまな発信をされている事は分かったが、私がかかわっている方からはその情報を聞くことがなかった。高齢の方でホームページを見る事が出来るような方は良いが、PC、スマホが使えない方は書面（広報）になってしまうのか。文章を読むことが面倒になっている方も多いため、介護に携わる事業所から対象者に発信しても良いのでは。</p>		<p>①②初期集中とはいえ、依頼があった時はすでに認知症も進行していることが多い。もう少し早く支援できていたら・・・と思う事が多い気がします。早めの症状が分かりにくい。その意味で「気づき連絡票」は有効だと思います。一般の方向けにも情報発信する事で、ご家族の悩みや相談の場があるのだという事を理解出来るのではないかと。認知症初期症状を見のがしやすいので、市民向けに情報紙などで発信するのはどうか。ケアマネジャーが1人いると他職種との連携が可能ではないか。</p>	<p>議事2 一般市民の方への情報発信は重要で同感です。特に気づき連絡票の存在を一般市民にもよく知ってもらう必要があります。</p>
6	認知症専門病院	<p>新型コロナ関連については、行政機関において発熱外来実施の有無、抗原検査やPCR検査の実施の有無等についての情報を収集し、住民の方々へ情報提供を行っていくことについてはいかがでしょうか？また、介護サービス等についても実施の有無や実施しても縮小している、条件付きでの実施等についても行政にて集約し、提供していくことも検討事項でいかがでしょうか？</p>		<p>認知症初期集中支援チームについては、チーム員としてまだまだ十分な周知ができていないという印象があるのと同時に、市内医療機関、介護事業所等との情報共有や連携という点において十分な関わりが出来ていないと実感している。</p> <p>②について、チーム員より積極的に近隣サービス機関への情報提供や連絡調整を行っていくことが必要であると思われまます。</p> <p>皆様からのご指導をいただきながら、地域住民の方々によりよい地域生活を送っていただけるよう支援してまいります。</p>	<p>議事2 チームの存在と利用方法は広く周知することが重要で、周知の方法を議論する必要があると思います。支援チームには、住民の支援に集中してもらい、この活動をサポートするシステムが必要かもしれません。</p>
7	蓮田市介護支援専門員連絡会	<p>・コロナ禍なので、全ての事が未経験であり、どう動いて良いのか、情報共有する場もなかったので、書面で聞いたり確認できたのは良かった。</p> <p>・思うように通えない 運動できないコロナの感染の収束の見当もつかない中での動き、対応が把握できた。今後も集う以外の方法での介護予防の取り組みや集う場所、どこで集うとしても感染予防の知識をしっかりと統一し、実践できる様に専門職の方に指導してもらおう等もあると良いと思われる。</p>		<p>思うように関わる事が出来ずにいる時に、初期集中チームが入って頂けるのは心強く、その後のサービスにつながって助かった。</p> <p>介護保険サービスが開始になった以降も状況によっては継続的に関わって欲しい。</p> <p>本人だけではなく、家族への指導や相談もお願いしたい。また福祉課等にも時に繋いで頂きたい。</p>	
8	介護施設・介護事業所		<p>現在のコロナ対策については、衛生用品（マスク・アルコール消毒・ティスボグローブ）は、当初単価よりも値上がりしているが、一時期の価格高騰や流通も落ち着いてきた様子。何か変化があれば元に戻ってしまう可能性はあるが、法人全体で備蓄をしながら対応している。</p>	<p>資料を拝見したが、資料だけでは以前の活動から直近の活動がどのように変化して、何が現状の問題点かが今一つ分からないので、支援をするための必要なことについて申し上げることはございません。</p>	

9	訪問介護事業所	<p>1. 介護予防事業における感染予防対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 再開に向けて市民と行政が密に連携をとり徹底した感染対策をもって安全な通いの場が提供されたことがわかりました。また、必要な物資が支援されていると感じました。 ◆意義と必要性について <ul style="list-style-type: none"> 先日NHKの番組で、コロナ禍で自死を選択した方の特集が放送されていました。どの方も「人との交流」が絶たれた故に起きてしまった出来事でした。身につまされる思いで拝見しました。独居の高齢の方は勿論ですが、老夫婦2人暮らしだから大丈夫だろう。の判断は危険です。感染対策はしっかりとしている旨を丁寧に説明した上で連れ出して差し上げないといけない。電話だけでは「問題ないです。2人でなんとかやっていますから。」で終わってしまいます。 利用者様でもデイを控えたり外出を控える方が、転倒骨折入院。明らかな下肢筋力の低下で室内転倒を繰り返すことが増えています。精神疾患をお持ちの方は不眠や不安は常に口にされ、顔つきまで変化してしまう方もいます。 ◆実施方法について <ul style="list-style-type: none"> できれば対面実施が望ましいです。皆さんで目的をしっかりと共有した上で少人数制、時間帯を分けての開催。心身の状態を評価できる専門職がつき、個別に話を伺える環境を整えられないか。相談できる場所としての役割も果たせないか。 <p>2. 新型コロナウイルス感染対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆感染予防物資に関すること 行政からの支援に感謝申し上げます。防護服が購入できず困っていましたが、少しずつ出回っており必要数確保できました。今後は金銭面で購入が出来ない方などに広く配布されたら良いのかなと思います。 ◆感染予防対策に関すること、対応について コロナも長期化している中で、感染予防方法の正しい知識も定着しつつあります。引き続き、個々が気持ちを緩めないための啓発活動は継続して実施していくべきだと思います。 		<p>「関係者が情報を共有し、連携して継続的な支援をするために必要なこと」◆利用者様（若年）のお父様の話 最近物忘れがひどいんだよ。とご本人も自覚されるほど言動に違和感がある。お母様の話でも自分で解決できないと、購入先の量販店や電気屋に外向き文句を言う。⇒受診を勧める⇒受診結果：慢性硬膜下血腫で入院・手術。上記のように、すんなりと受診に繋がるケースは問題なく、その後の必要に応じた介入も受け入れが容易と思われそうですが、受診が困難な方を医療機関に繋げていく方法は、●ネックになっている問題は何？（億劫、家族に迷惑がかかる、怖い等）●どうしたら出られると思う？（具体的な本人の想いを時間をかけて聞く、ある程度周りの状況を伝えつつ、ご本人に考えてもらう。）●信頼関係（1番大事）</p> <p>◆気づき連絡票の活用 専門職が介入前に初期集中支援チームに繋げようと思うと、気づき連絡票の活用が有効と思われます。現在は民生委員に協力頂き一部の地域でお試し運用の段階かと思われそうですが、今後は郵便局やスーパー、薬局、コンビニ等に協力頂けると心強く思います。◆歩ける、ある程度会話が可能な徘徊傾向の利用者様の話 買い物同行の支援で介入⇒スーパーの店員に「あの、今日はお支払い大丈夫ですか？」と言われ確認すると、いつもお財布が無いのに商品を購入しようとレジに並び、との事。⇒同伴者がいる場合は大丈夫な旨お伝える。※把握されていたことが少し嬉しくなりました。●確かに日中も道端で良く出会うし1日に何度も買い物に出向いている事は承知している。見ていると徒歩で帰宅できる可能な範囲での購入しかしていない。</p> <p>状況を把握している私達は・・・ 天気の良い日は大いに歩いてほしいし、ご近所の方と会話も楽しんでほしい。（相手の方はどのように思われているか不明ですが、ご本人はいつもニコニコと楽しそう） 一方でお店の方は・・・ 「またあの人が来た。どうしよう困った。」 上記のように立場が違っていると見え方がまるで異なるので、認知症の方が住み慣れた地域で末永く暮らしていただける環境を作る為には、ある程度同じ方向を向く必要があると思います。具体的に ・連絡を受ける箇所は集約しておく（専門職が記入済のケースもある。） ・統計を取ることで困りごとの相談を誰に打ち明けているか把握できる（困りごとの相談は家族だけでは限らず他人の事も多い。） 余談ですが上記の例の方は、ご家族に現金を持たせてもらえず出歩けなくなり自宅での転倒も増えました。介入に拒否は無い為、一緒に調理を行い楽しそうに喜ばれていますが、会話は止まらず寂しい思いもされていると見受けられます。拒否があったデイも体験に行くことができ今後介入予定です。</p>	<p>議事2 気づき連絡票を広く知ってもらうためにスーパーなど利用するなど良いアイデアかもしれませんが。そのためにも、認知症になっているのを見つかるというよりは、認知症の前段階で見つけることもできるような表現にすることも考えた方が良いかもしれません。</p>
---	---------	--	--	--	---

11	蓮田市社会福祉協議会	<p>●どの様な支援策が地域において必要か</p> <p>1) 蓮田市の感染者が、感染したと思われる『場所』、『行為』などの統計データは開示できないのか？(市ホームページを見たが見つからない)</p> <p>目的・・・自分たちの行動見直しの参考としたい。</p> <p>2) 新型コロナウイルス用ワクチン接種に当たり、パルシーなどで集中接種を行う場合には、高齢者の会場への往復移動手段の検討をお願いします。</p> <p>3) 高齢化による『交通難民』への支援策の検討要望</p> <p>① 現在、高齢運転や自転車で、買い物、病院などへの移動をしている方たちは、数年後には自前の移動手段がなくなり、バスかタクシーによる移動となると推測される。</p> <p>② 高齢者に対し、移動手段に対する支援を検討して頂きたい。</p> <p>● 感染症に対する国の取組に対する要望・・・永久保の勉強兼ねて</p> <p>1) 2002～2003年に発生した『サース(SARS)』の感染拡大終息後、台湾、韓国などは感染症対応体制を整備した為に、新型コロナウイルス感染症に対する対応が効果的に実施できたという。</p> <p>2) これに対して、日本はSARSの感染者が少なかったこともあり(?)、感染症対応の体制整備をしなかった。</p> <p>3) 新型コロナ感染症終息後、今回の感染症対応施策を評価し、具体的な体制整備、法整備を実施することが必須である。</p> <p>4) 米国では、CDC(アメリカ疾病予防センター)は1946年に、健康に関する信頼できる情報の提供と健康の増進が主目的として設立された。生命の脅威となる疾病には国内外を問わずに駆け付け調査・対策を立てる上で主導的な役割を果たしている。新しい形の遺伝子組み換え型ワクチン開発についても、早くから取り組んでいたのので、新型コロナ用のワクチンが早期に開発できた要因と聞いている。</p> <p>5) 感染症研究所の位置づけを省庁クラスにすること。可能であれば、日本版CDCの設立が望ましいと思われる。</p>	<p>● 新型コロナウイルス感染症への所属部署での取り組み状況</p> <p>1) ボランティア グループ 『ともしび』に所属している。</p> <p>① 蓮田市社会福祉協議会(以下、社協と称す)に登録し、会員24名</p> <p>2) 主な活動は、『広報はすだ』、『みんなの福祉』、単行本などの点訳・印刷製本、小中学校での『点字教室』の開催(小学校8校、中学校2校)</p> <p>3) 新型コロナ対策状況</p> <p>① 社協における活動・作業</p> <p>a 入館時・・・一斉入館、体温測定、手指アルコール消毒、氏名・体温の一覧表作成</p> <p>b 打合せなど実施時・・・マスク着用、社協設定人数制限</p> <p>c 退館時・・・使用機材のアルコール消毒、床掃除、消灯、チェックシート及び氏名・体温一覧表の提出</p> <p>② 『点字教室』(小中学校における)</p> <p>a アルコール消毒済み携帯用点字器をポリボックスに収納し学校へ搬入(搬入を社協へ依頼)</p> <p>b 授業中に個別指導(密になり易い)を避けるために教材改定</p> <p>注1) 個別指導とは、理解できない生徒を個別に教えること</p> <p>注2) 個別指導の代わりに、『分からない点』を新教材などを使用して、『疑問点と解決策』を全員に説明する。</p> <p>c 指導者を1教室2名に制限(個別指導を極力避けるため)</p> <p>d 指導者予備を1名指名し、当日朝検温NGの場合、予備者と交代する</p> <p>e 終了後、携帯用点字器の消毒を学校に依頼・・・後日、社協へ搬入</p> <p>③ 点訳、校正などは自宅作業 ⇒ 校正の為に点訳データのやり取りはメールを活用(極力、対面を避ける)</p>	<p>(1) 関わっている患者様、または利用者様の、初期集中支援チームへの情報提供とその方法についてのご意見</p> <p>① 初期集中支援チームとの連携仕組みづくり</p> <p>1) 自治会、老人会、婦人会などの団体と共同活動をする為の仕組みづくり</p> <p>3) 協議体としての取組(私案)</p> <p>① 『認知症』への理解を深めるための勉強会、講習会カリキュラムの策定</p> <p>② 認知症の理解を地域に広める・・・『自分事』として学び考えること</p> <p>a サロン・老人会、自治会、婦人会などと連携し勉強会、出前講習会などの開催。 ☆課題・・・会場費の手当必要</p> <p>b 『認知症』先進地域との交流会の実施</p> <p>c 蓮田市内の施設、取組などの見学、意見交換</p> <p>③ 小中学校との連携による、『認知症』に関する授業の実施</p> <p>a 出前講習会の実施</p> <p>b 蓮田市内の施設見学、生徒たちと協議体メンバーとの『認知症』への理解を深めるための課題解決型の共同作業の実施</p> <p>② 役員交代時期である年度初めなどに連絡会を開催するなど定期的連携の実施など。</p> <p>2) 永久保は、平野中学校地区協議体のメンバーです。</p> <p>① 12月22日に『認知症』を活動テーマとして取組むことを決定した。</p> <p>② 2月25日(木)の次回協議体で『認知症』に関する勉強会を実施する。</p> <p>a 『認知症』とは。</p> <p>b 『認知症』に関する蓮田市の取組についてなど</p> <p>③ 3月以降の会議日程は未定。など</p> <p>c 生徒から家庭への波及効果(期待)。</p> <p>④ 『気づき連絡票』の活用・・・民生委員とのコラボ</p> <p>⑤ 『認知症』への理解を維持・進化させるために継続的活動の実施。</p> <p>(2) 初期集中支援チームによる支援後の連携した支援に向けて、情報共有と支援方法についてのご意見</p> <p>1) (1)の取組を継続できれば、実現できると思われる。</p>	<p>議事2 認知症の理解を深めることはとても良いことですが、本人は認知症ではないと思いたい状況をどのように解決していくか(認知症の予防とか早期介入で進行させない→そのための「気づき連絡票」)という位置付けも考える必要があるかもしれません。</p>
----	------------	--	--	--	--

10	蓮田市閻戸・平野地域包括支援センター		<p>新型コロナへの対応については毎日、出勤前、後の検温、不織布マスクの着用、施設入退室および各棟移動時のアルコール消毒（手指）を行う。訪問も必要なものに限定、施設入退室および訪問前後にアルコールの手指消毒を行い、新規の訪問時は相手がマスクをしていなければ、マスク着用の声かけを行い、場合によりフェイスシールドを着用する。食事時も人数を制限し、会話も控えている。施設としても全面的な面会を禁止、出入り業者の制限および入館時の検温、手指消毒、マスクの着用をお願いしている。施設内は1日2回換気、1日1回以上の手すり、ドライブ他のアルコール消毒も行っている。入所の家族にはオンライン面会の案内を送っている。</p>	<p>認知症で関わった方の話を家族から聞き取りをする と主治医より「介護保険の申請やサービス利用を以前から何度も勧められていた」と聞くことが多い。認知症初期に気づき、関わっていくには主治医の先生の存在が大きい。初期集中支援チームへの情報提供としては、主治医からの情報提供がベストだと思う。もちろん情報共有のツールとしては「気づき連絡票」を引き続き、積極的に活用していく。そのうえで主治→地域包括あるいは主治医→初期集中支援チームへの情報提供（気づき連絡票の簡易版）を蓮田独自で作って頂きたい。せめてケアバスを主治医より認知症の家族に配布して欲しい。</p>	<p>議事2 主治医（かかりつけ医）の参加は、当然ながら必要な条件だと考えます。（重要ですがこれだけでは十分ではありません・・・）</p>
12	幸手保健所	<p><市の取組に関する意見> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防ボランティアが専門家から適切な感染対策を学んだり、感染予防策をとり工夫して開催している地区の取組を共有したことは良かったと思います。 ・ その後のボランティアの活動において感染予防策の徹底が図られているか市としてきちんと把握し、引き続き、介護予防と感染拡大の防止の両立を図っていただきたいと思います。 ・ 自宅で介護予防に取り組むための情報冊子やDVD等の作成に取り組んでいるとのことですが、例えば体操であれば、ラジオ体操のようにカードにスタンプがもらえるなど効果が見えて満足度が高まったり、ポイントをためると特典がもらえるなど市民が積極的に利用したくなるような取組ができたらよいと思います。 </p>	<p><新型コロナウイルス感染症への対応について> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、彩の国「新しい生活様式」安心宣言に沿って、感染防止対策に取り組んでいます。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有の手段は、電子媒体であれば一度に多くの人が情報を共有できるので有効だと思います。 ・ 埼玉県利根地域保健医療・地域医療構想協議会に出された第七次地域保健医療計画の令和元年度取組実績を見ると、「ICTによる在宅医療・介護連携ネットワークシステムの推進」の取組の中で、蓮田市ではメディカルケアステーション（MCS）について研修し、普及啓発を行っているとのことです。 ・ 今後、MCSが更に活用できればよいと思います。 ・ このほか、「とねっと」の健康記録機能が充実していくようなので、今後、情報提供や情報共有に活用できるとよいと思います。 	<p>議事2 「とねっと」は良いシステムですが、蓮田市が医療圏の南端にあるため、登録者が少なく、うまく活用できていません。病院も努力が必要ですが、もう少し広く情報を流す必要もあると考えます。</p>
14	蓮田市民生委員・児童委員協議会	<p>コロナ対策の消毒に関する備品を配布していただきありがとうございます。 現在、蓮田市の状況は破竹の勢いで増え続けていると思われま。発生元を詳しく知る必要はないのですが、5地区の会長のみでよいと思います。どの地区で発生しているか、お教え頂くとありがたいです。特に児童、生徒の保護者が必用以上に敏感になっています。</p>		<p>民生委員は担当地域と近隣の地域の民生委員と連携し、小さな情報でも耳にすると、話し合っています。解決はできないが、お互いの連携、行政との連携を持ちながら、見守っていき、今後も活動を行っていきます。</p>	
13	自治連合会	意見なし		意見なし	